



ご当地 **よ坊さん** 茨城

茨 歯 会 報

No.578

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

June
2017
平成29年

6



Contents

デンタルアイ	1
岡崎 恵一郎	
理事会報告	3
会務日誌	4
厚生委員会だより	6
医療管理委員会だより	8
学校歯科委員会だより	10
センターだより	11
専門学校だより	15
同好会だより	17
村木 英司	
寄稿	19
荻野 義重	
ピンクのエプロン	21
須藤 輝代	
リレー通信	22
木村 和男	
会員の異動	25
国保組合 NEWS	26
茨歯アンテナ	27
事務連絡	29
赤えんぴつ	30

表紙写真について

あしかがフラワーパーク

「ふじのはな物語～大藤まつり2017～」
GWの5月4日、夜の藤棚が綺麗とのこと
で、夕刻に合わせて向かいましたが直前の
交通渋滞で、結局閉園1時間前の到着とな
りましたが、見応えのある藤棚の景色に大
満足でした。

(社)茨城県つくば歯科医師会 小林 健一

歯科専門学校と日歯学術の紹介



理事
岡 崎 恵 一 郎

先月号で報告しましたとおり5月21日に県民向けの健康フォーラムを開催し、これにて、「前」執行部学術関連事業は終了しました。学術部は、講演会や歯科医学会の運営が主な仕事ではありますが、執行部や委員の交代時期でも絶え間なく歯科医学会誌の原稿確認など委員会メールでやりとりを続けており、7月末の新委員会発足まで仕事は続きます。

実は今回、もう一つ例外があり、私は4月から歯科専門学校教頭を拝命しました。この記事が公になる頃には終了している第163回定時代議員会（6月22日開催）で過半数の信任を得られなければ理事を続けられませんのでやや気が重いのですが、学校運営がスムーズに進むようにと、このような流れとなりました。専門学校関係で私の仕事の一部を紹介しますと、5月中旬に学校案内を完成、今後、6月から教頭の私は水戸市内の高校を中心に学校訪問、また、6月11日からは衛生士科の3年生と研修旅行にも引率で参加します。最も頭を悩ませるのが学生募集で、「2018年問題」（これまでの大学の学生募集数増加・18歳人口が2018年を目途に減少開始）を抱える中、6年前に就任した小鹿校長・田中教頭チームが力を入れた校長・教頭による学校訪問、2年前小鹿校長・綱川教頭チームが

採用した高等学校校長経験者のアドバイザー依頼。今年度も征矢校長と協力し、使える手法はすべて使い熱意のある学生を集めたいと考えています。

このように自身の役割が激変している時期の「Dental Eye」執筆依頼。何を話題にするか迷いましたが、もう一つ、4年前に森永会長に推薦いただき就任した日本歯科医師会学術委員会を紹介します。

日歯学術委員会で大きく時間を割くのは、全国10か所で開催され、またDVD作製も行う「生涯研修セミナー」です。セミナーのテーマ・講師の選定から、テキスト作成・DVD収録・DVD内容確認まで委員会で行います。セミナー開催時には、講師と共に開催地を訪問し、視察・開催状況の報告を行っています。そしてもう一つ、Eシステム内で配信される「日歯生涯研修ライブラリー」、こちらについても同様にテーマ・講師の選定、収録内容の確認などを行います。こちらは本数が多いため時間を要します。

また、全国的な組織のため、生涯研修事業実施要領・生涯研修セミナー実施要領・Eシステム利用マニュアルなど、ルール関係文書もいくつかあります。毎年ほとんど同じように見えるかもしれませんが、議論を重ね毎回少しずつ改

変を続けています。

その他、日本歯科医師会の生涯研修のあり方について、任期の2年間議論を重ね「日本歯科医師会歯科医師学術生涯研修事業に関する意見書」として、任期末に会長宛提出という仕事も行います。この意見書については、過去のものは日歯メンバーズルームの奥深くを探すと掲載されていますが、どうも最近は公表されていないようですので、すべての情報を公表することは控えますが、一例を紹介します。すでに過去の日歯広報や日歯メールマガジンで、理事会に

て検討されたと報告のあった「新たな専門医制度を含む歯科専門性」についてなども、委員会で議論を行い、日歯会長宛に意見をまとめさせていただきます。高齢化社会による在宅歯科医療の増加、全身疾患・医科との関わりなど、歯科の専門性も時代と共に変化しています。日歯広報や日歯メールマガジンをご覧くださいことにより、日歯の方向性も見えてくると思いますので、それらを参考にいただければ幸いです。

株式会社 岩瀬歯科商会

昭和の幕開けと共に栃木県で創業した弊社は、今年で90年目を迎えます。皆様方への感謝を忘れず、未来を見据えた歯科ディーラー像を創造して参ります。

イワセオリジナルユニット
**SIGNO
NEXT**

こだわりと好みをひとつずつ反映しながら、
ワンランク上のラグジュアリー空間と
心地よさを演出します。

■ 製品名 歯科用ユニット
■ 製造元 株式会社モリタ製作所
■ 規格 日本工業規格 JIS S 4000
■ 保証 10年保証
■ 価格 1,000,000円（税別）

製造販売・製造
株式会社モリタ製作所
本社 栃木県宇都宮市中央区上落合 2-1-24 TEL 048-882-1315
伊那工場 埼玉県北足立郡伊那町小室 7129 TEL 048-723-2621

発売
株式会社モリタ
大阪本社 大阪府吹田市豊津区 3-33-18 TEL 06-6380-2525
東京本社 東京都台東区上野 2-11-15 TEL 03-3834-6161



事業所案内

本社	台東区台東2-23-7	TEL:03-3832-8241
宇都宮支店	宇都宮市平出工業団地37-6	TEL:028-613-5858
水戸支店	水戸市白梅2-8-18	TEL:029-225-6543
松戸支店	松戸市幸谷観音下159-1	TEL:047-345-3131
千葉支店	千葉市中央区浜野町879-1	TEL:043-305-1182
上野支店	台東区台東2-23-7	TEL:03-3832-8241
古河支店	古河市下山町9-60	TEL:0280-30-1582
福島支店	福島市鎌田字卸町4-1	TEL:024-552-1161
世田谷支店	世田谷区玉川台2-11-17-101	TEL:03-5491-7595
練馬営業所	練馬区豊玉北4-14-11	TEL:03-5912-1180
横浜支店	横浜市長区小菅ヶ谷1-28-9-101	TEL:045-895-3808
5月GW明け以降	横浜市磯子区中原2-1-19	TEL:045-770-4182
前橋支店	前橋市紅雲町1-22-2	TEL:027-243-8241
5月GW明け以降	高崎市京目町176-2	TEL:027-350-8241
厚木支店	厚木市酒井2087-14	TEL:046-228-5550
大宮支店	さいたま市見沼区東大宮7-41-1	TEL:048-688-1740
盛岡支店	盛岡市上堂1-6-5	TEL:019-648-2777
東大和支店	東大和市立野3-640-1	TEL:042-590-5770

理事会報告

第2回理事会

日時 平成29年5月18日（木）午後4時

場所 茨城県歯科医師会館 会議室

1. 報 告

- (1) 一般会務報告（報_資料1）
- (3) 生活習慣病予防対策推進事業
中央地区健康フォーラムの後援について
（県医師会）
- (4) 5月開業予定の歯科医院について
- (5) 口腔センター土浦新築工事請負契約の締結
について
- (6) 疾病共済の支払いについて
- (7) 各委員会報告について
学術委員会、厚生委員会、医療管理委員会、
学校歯科委員会、社会保険委員会、専門学校

2. 協議事項

- (1) 入会申込の受理について
鈴木 聡美氏（東西茨城）、朝井 清人氏
（鹿行）の入会を受理した。
- (2) 第163回定時代議員会について
 - ①第1号議案 公益社団法人茨城県歯科医師会平成28年度決算に関する件
 - ②第2号議案 役員の選任に関する件
 - ③第3号議案 日本歯科医師会代議員・予

備代議員選挙に関する件

標記第1号議案、第2号議案、第3号議案
について承認した。

- (3) 代議員数の決定及び地区への委員会委員選
出依頼について

標記について、防災・危機管理運営委員を
除外し、その他は承認した。

- (4) 平成28年度備品の廃棄処分について
標記について承認した。

- (5) 平成28年度茨城県心身障害者（児）歯科診
療所運営費補助金実績報告書（案）について
標記について承認した。

- (6) 茨城歯科専門学校学則の一部改正（案）に
ついて

標記について承認した。

- (7) 無料職業紹介所と専門学校の求人の一元化
について（継続審議）

茨歯会報などで、無料職業紹介所を会員に
周知することについて承認した。

- (8) 茨城県歯科医師会新年会の余興を厚生委員
会が担当することについて

今後、新年会の余興を厚生委員会が担当す
ることについて承認した。

- (9) その他

顧問会計士、顧問弁護士の契約について

標記契約について継続することについて承
認した。

会務日誌

- 5月18日** 第1回備品・消耗品監査を執行。土浦センターと茨歯会館にて、土地、建物、備品、消耗品の管理保管並びに整備状況について監査を行った。
出席者 鈴木監事ほか7名
- 5月18日** 第1回業務会計監査を執行。業務並びに制度に関する監査（2月1日～3月31日）、会計に関する監査（平成28年度収支決算）を行った。
出席者 鈴木監事ほか7名
- 5月18日** 第2回理事会を開催。入会申込の受理、第163回定時代議員会、代議員数の決定及び地区への委員会委員選出依頼、平成28年度備品の廃棄処分、平成28年度茨城県心身障害者（児）歯科診療所運営費補助金実績報告書（案）、茨城歯科専門学校学則の一部改正（案）、無料職業紹介所と専門学校の求人の一元化、茨城県歯科医師会新年会の余興を厚生委員会が担当することについて協議を行った。
出席者 森永会長ほか17名
- 5月19日** 四師会地域包括ケアワーキンググループ第7回会議が県医師会にて開催され、地域包括ケアの構築について協議が行われた。
出席者 黒澤副会長ほか2名
- 5月20日** 第2回広報委員会を水戸市内にて開催。会報5月号の校正、会報6月号の編集について協議を行った。
出席者 小林広報委員長ほか9名
- 5月21日** 口腔ケア講習会を開催し、「口腔ケアの可能性…誤嚥性肺炎予防から摂食嚥下まで」の演題で、歯科衛生士による実技指導を交えて、神田稔介護保険委員が講演を行った。
受講者 102名
- 5月21日** 本会の主催で「健康フォーラム口からはじまる健康長寿」を常陽藝文センターにて開催。首都大学東京名誉教授の星旦二先生、日本顎咬合学会理事長の上濱正先生による「かかりつけ歯科医の重要性」についての講演の後、ディスカッションを行い、最後はテノール歌手志摩大喜氏のミニコンサートで盛況のうちに幕を閉じた。
参加者 231名
- 5月22日** 大好きいばらき県民会議総会が県市町村会館にて開催された。
出席者 森永会長
- 5月24日** 新規に指定された保険医療機関に対する集団指導が水戸生涯学習センターにて行われた。
対象医療機関数 12
- 5月25日** 日歯認定歯科助手講習会の第1回目を開催。開講式の後、「歯科助手概論・歯科助手の仕事」の講義が行われ、その後「歯科助手の心得とマナー」についてコミュニケーションアド

バイザーの中村八恵子先生が講義された。

受講者 47名

5月25日 県栄養士会定時総会が県民文化センター小ホールにて開催された。

出席者 黒澤副会長

5月25日 第1回茨城スポーツ・健康づくり歯学協議会プロジェクトチーム委員会を開催。いばらきスポーツデンティスト養成講習会（案）、いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会、平成30年度開催日本スポーツ・健康づくり歯学協議会について協議を行った。

出席者 荻野茨城SHP委員長ほか11名

5月25日 いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会を開催、協議会要綱の改正、協議会活動指針について協議を行った。

出席者 森永会長ほか21名 荻野茨城SHP委員長ほか9名

5月26日 第1回オープンキャンパスを実施。歯科衛生士科に20名の参加があった。なお、今回歯科技工士科への参加はなかった。

5月26日 都道府県会長会議が日歯会館にて開催され、時局問題について協議が行われた。

出席者 森永会長

5月31日 第2回県国民健康保険制度移行準備委員会が県庁舎にて開催され、国保事業費納付金の算定方法ほかについて協議が行われた。

出席者 森永会長

5月31日 茨城型地域包括ケアシステム推進センター第1回運営協議会が県医師会にて開催され、事業計画について協議を行った。

出席者 森永会長

6月 1日 茨城政経懇話会6月例会がホテルテラスザガーデン水戸にて開催された。

出席者 森永会長

6月 5日 水戸市口腔衛生優良児童生徒表彰式が県民文化センターにて開催された。

出席者 森永会長

6月 7日 第3回社会保険正副委員長会議を開催し、第3回委員会、保険講習会、疑義、理事会、審査内容について協議を行った。

出席者 榊社会保険部長ほか2名

6月 7日 第3回社会保険委員会を開催し、疑義、保険講習会の日程について協議を行った。

出席者 榊社会保険部長ほか20名

第50回関東地区歯科医師親善ゴルフ大会 茨城県団体3位入賞 茶園先生ベスグロ

IDC 幹事 柴原 宏一郎

今年も恒例の関ブロゴルフ大会が、6月1日（木）栃木県の当番で、烏山城カントリークラブで1都7県190余名の歯科医師が参加し開催されました。（本県からは選手役員23名の参加でした）

半世紀の区切りの50回記念大会が、第1回を開催した栃木県に廻ってきた不思議なめぐりあわせを感じました。第1回から参加しているという、栃木県の高原宏先生御年88歳も元気にプレーされ、パーティで当時の懐かしい話を披露されました。

烏山城カントリークラブは、前年日本女子オープントーナメントが開催され、本県のアマ畑岡奈紗選手が最終ホールで難しいパットを入れ、劇的優勝し名を全国にとどろかせたコースです。すぐプロ転向し現在アメリカで奮闘中ですね。本丸、二の丸、三の丸と27ホールあるコースですが、アップダウンも距離もかなりあり、グリーンも傾斜ありでプレイヤーを悩ます難コースでした。栃木県内陸部に位置し高速道路インターから遠いので、各県選手の大半は前日併設ホテル等に宿泊し、個別の夕食宴会で懇親を深めました。

今年の各県対抗戦は、シニア枠（60歳以上）グロス上位3名、一般枠（年齢制限なし）グロス上位4名ずつの計11名の合計で争われました。埼玉県と東京都が同スコア（916ストローク）で並び、シニアの最上位のスコアで埼玉県の優勝となりました。続いて茨城県が健闘し（930ストローク）3位に入賞しました。シニア枠で村居幸夫先生の78

回、一般枠で茶園基史先生の76回（全体でもベスグロ）のナイスプレーが目を見せました。190余名の中で70台はわずか4名で、例年ですと10名以上はいるので、難コースだったと言えます。本県は4月始めに遠征し、練習ラウンドをした成果がでました。

個人戦はシニアも一般も役員も招待も一緒に新ペリア方式で行われ、30位までと10位ごとが入賞とされ賞品が贈られ、本県でも8名が該当しました。

来年はいよいよ茨城県の当番になります。平成30年5月31日（木）江戸崎カントリークラブ東コースでの開催が決定しています。準備委員会を立ち上げました。過去50回の歴史ある大会ですが、茨城県は最高が2位です。地元開催でなんとか団体優勝を勝ち取りたいと思っています。

この大会は茨歯会厚生部の事業の一つになっておりますので、会員各位のご協力を切にお願い申し上げます。



成績表

団体戦に貢献した本県選手のスコア

団体戦 一般枠上位 8 名とシニア枠上位 3 名の

合計

1 位	埼玉県	916 ストローク
2 位	東京都	916 ストローク
3 位	茨城県	930 ストローク
4 位	栃木県	950 ストローク
5 位	群馬県	954 ストローク
6 位	神奈川県	955 ストローク
7 位	山梨県	964 ストローク
8 位	千葉県	965 ストローク

村居幸夫 (水戸)	78
荒野 実 (鹿行)	90
徳永一充 (つくば)	91

茶園基史 (土浦石岡)	76
木戸正人 (県南)	83
草野廣幸 (鹿行)	84
平尾 修 (県南)	84

千葉順一 (土浦石岡)	85
吉田勝幸 (つくば)	86
色川敦士 (土浦石岡)	86
大寄哲也 (鹿行)	87

医療+管理委員会 だより

歯科衛生士復職支援講習会 in 結城

医療管理委員会 河野 雅人

平成29年4月27日（木）結城市の河野歯科医院で地区開催となる「歯科衛生士復職支援講習会 in 結城」を開催しました。



講師には茨城県歯科衛生士会会長芹澤鏡子先生をお迎えし、器材も先生に用意していただきました。

はじめに委員挨拶、講師紹介、アシスタント紹介と進み、参加者が一名だったため、要望に沿った講習を午前10時15分に始めました。

ハンドスケーラーを一人前に使いこなしたいという希望で、まずはシャープニングを30分間マンツーマンで行いました。

- ・スケーラーの第1シャンクと刃の角度との関係
 - ・刃に対するストーンの位置
 - ・スケーラーの持ち方とストーンの動かし方
 - ・研げた刃と研げていない刃の違い
- 次にキュレタージの実習ですが、

アシスタントの口腔内を各部位それぞれにレストの取り方から歯牙に当てる角度、力の入れ方、動かし方を事細かに行いました。

講師、受講者ともに時間を忘れてしまうほど充実した講習会になりました。参加者が就職相談を希望しなかったのも、お茶を飲みながら、アンケートを書いてもらい、午後1時少し前に終了しました。

今回は、参加者が一名という残念な結果でした。

- ・ゴールデンウィーク前で時期が悪かったのか
- ・県西のはずれの結城市での場所が悪かったのか
- ・地区に該当者が少ないのか
- ・ポスターのアピール不足か

様々な原因が考えられます。

医療管理委員会は歯科医院の広告（ポスター）、ホームページ、真珠会（衛生士学校のO



G会)、衛生士会のお知らせ、茨城新聞などで宣伝をしておりますが、過去のアンケートでは歯科医院の広告でこの講習会を知った方が一番多いそうです。ポスターの掲示数が多くなればなるほど参加者の増加につながるのではないのでしょうか。講習会本来の目的は、衛生士不足の解消であり、衛生士募集されている医院様ではそのポスターとはがきを利用して（例えば自院の衛生士募集広告を付けるなど）積極的に貴院に勧誘されても構いません。これからも各地区で「歯科衛生士復職支援講習会」を行います。各医院にお配りするポスター、はがきをできるだけ目立つ所に掲示くださいますようお願い致します。



茨歯会無料職業紹介所

<http://work.ibasikai.or.jp/>



一般社団法人日本学校歯科医会 「学校歯科医生涯研修制度 更新研修」 参加報告

学校歯科委員会 加藤 昌裕

平成29年6月13日（火）13：30より東京都千代田区の日本歯科医師会館3階第一会議室にて「学校歯科医生涯研修制度 更新研修」に参加致しましたのでご報告致します。

13：30開会の発声後、会長挨拶、講師紹介の後13：40より講義開始。

講義：

1. 「生きる力をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」

講師：文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 教科調査官 森 良一先生

2. 「スポーツ活動中の歯・口のけがの防止と応急処置について」

独立行政法人 日本スポーツ振興センター DVD

3. 「学校歯科保健に関する質問とその回答」

講師：一般社団法人日本学校歯科医会 専務理事 藤居正博先生

講義1は、「新学習指導要領改訂のポイント」に変更となりお話し頂いた。新学習指導要領を、本年度、来年度の2年で検討し、再来年に「生きる力をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」の改訂版を出すとのことでした。

講義2は、日本スポーツ振興センターのホームページ内、学校安全Webの「映像資料（DVD）」（4.スポーツ活動中の歯・口のけがの防止と応急処置）のDVDを視聴しました。

URLは、

<http://www.jpnsport.go.jp/anzen/tabid/1765/Default.aspx> です。

茨歯会のホームページからも、「学校歯科保健関係者の皆様へ」→「学校安全Web」→「映像資料（DVD）」で入れます。

講義3は、書面の都合上1問だけご紹介します。

質問：健康診断の流れと要点（学校歯科医の活動指針付録）の咬合判定「2」の基準、上顎前突オーバージェット7～8mm以上（デンタルミラーの直径の半分以上）は、現在のミラーが通常18mm以上である事を考えると誤りではないでしょうか。

回答：ご指摘のとおり一般的にデンタルミラーの直径は13mmから20数mmであることからお使いのデンタルミラーの大きさを把握して頂き、検診現場で簡便に測定するツールとして活用頂く例として挙げております。

15：30定刻通り、一般社団法人日本学校歯科医会 専務理事 藤居正博先生の御発声により閉会となりました。

帰りに頂いた修了証の有効期間が平成39年3月31日でした。更新研修は十年有効です。次回の更新研修には皆様方も是非ご参加頂けます様お願い致します。



(公社) 茨城県歯科医師会主催 「平成29年度第1回障害児・者歯科講演会」報告

(公社)茨城県歯科医師会 口腔センター水戸

関口 浩、村居 幸夫、征矢 亘、森永 和男

平成29年6月11日(日)に茨城県歯科医師会館講堂におきまして、(公社)茨城県歯科医師会主催の「第1回障害児・者歯科講演会」が開催されました。今回は「早産児・低出生体重児を知っていますか～小さかった赤ちゃんたちのこと、知って下さい～」と題して、今村公俊先生(土浦協同病院・新生児科部長)と今村由紀先生(まゆみ矯正こども歯科・小児歯科医)のお二人にご講演いただきました。本講演会には歯科関係者以外に障害者に携わる多職種の方、家族など66名の参加者の皆様にご来場いただき、熱心に拝聴されていました。講演終了後には参加者と活発な質疑応答が交わされ、盛会のうちに終了しました。本講演会について、アンケート結果をもとにご報告します。



講師 今村由紀先生、今村公俊先生

今村公俊先生講演内容の要旨

妊娠37週未満で生まれた赤ちゃんを早産児、体重2,500g未満で生まれた赤ちゃんを低出生体重児と呼びます。さらに出生体重1,500g未満を極低出生体重児、1,000g未満を超低出生体重児と定義します。いずれもかつては「未熟児」と呼ばれていました。

日本の年間出生数は約100万人(茨城は2万人)です。そのうち2,500g未満で出生する児は約10%でこの数字はここ数年変わっていません。

早産、低出生体重児といっても全ての赤ちゃんが新生児科入院になるわけではなく、土浦協同病院では妊娠35週0日以降の出生でかつ出生体重が2,100g以上あり、合併症もなければ通常の産科管理で退院します。

上記の基準に満たない早産・低出生体重児や合併症がみられる児は新生児科入院を経てお家に帰ります。入院中は未熟性に起因する様々な疾患を乗り越えて退院することになります。

未熟性に起因する疾患には、新生児呼吸窮迫症候群や気管支肺異形成(慢性肺疾患)など呼吸に関わる疾患、脳室周囲白質軟化症のような神経の疾患や未熟児網膜症という眼科疾患などが含まれます。また、エナメル質形成不全や癒合歯など早産に起因する歯科合併症も退院後の外来で見られることがあります。

早産・低出生体重児の多くは徐々に発育・発達とも予定日近くに出生したお子さんに近付き、特別な配慮を要しません。しかし一部発達障害を抱えるお子さんもいます。

早産・低出生体重児の退院後の生活や発達のためには医師だけでなく歯科医師（発達障害のお子さんが治療になると大変です）や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保健師、社会福祉士、教育機関の先生方など多職種の関わりが重要です。

新生児科の治療や経過は新生児科の中で終始し、一般に馴染みのないものが多いです。本日はそういった早産・低出生体重児特有の疾患、生理についてお話しすることで新生児科卒業生の診療にご理解を深めていただきたいと思います。

今村由紀先生講演内容の要旨

医療の進歩で新生児の死亡率が減少し、低出生体重児として生まれたお子さんが、歯科医院に来院することが増えています。

クリニックにこんな患者さんが来たらどんな風に対応しますか？ある日、お母さんと来院したのは3歳のAくん。お口の中を見ると、上の歯全体が黄色く、下の前歯には癒合歯があります。お母さんに話を聞いてみると、28週、1,100gで生まれた極低出生体重児だったそうです。

「極低出生体重児」と聞いて、その後の診療はどうしたらよいのでしょうか？一般の子と同じでよいのでしょうか？

私がはじめて「低出生体重児でした。」と言われたときは、「どうしたらいいんだろう？」と、とても動揺してしまったというのが正直な気持ちです。

今はとても元気そうに見えるけれど、そんなに小さく産まれたのなら、どこかに障害があるのかもしれない。発育が遅れるのかもしれない。このクリニックで診療していいのかな？大きな病院に紹介したほうがいいのか？それとも、生まれた時は小さくても、今こんなに元気なのであれば、

一般の子となにも変わらないのかな？

低出生体重児に関する知識がほとんどなかったために、どんなふうに対応したらいいのか、困ってしまったのです。

身体的な障害や、自閉症、ダウン症など、診断のついた障害のあるお子さんの場合は、その障害に合わせた対応が必要になりますが、「低出生体重児」は、それ自体が病気でも障害でもありません。だからこそ、どんな対応が適切なのか？学ぶ機会がほとんどないように思います。

低出生体重児だからといって過度に身構える必要はありませんが、特徴的な口腔内の症状があったり、身体的、精神発達の障害が見られる場合もあります。

低出生体重児によく見られる特徴を知り、また、お子さんがどうやってここまで育ってきたのかを知ることで、歯科医院を訪れる低出生体重児とその保護者の気持ちに寄り添った対応を心がけたいと思っています。

アンケート集計結果

受講された方々には所定のアンケート用紙に無記名で記載をお願いし、会終了後に回収しました。

1) 受講者数とアンケート回収率

受講者数は66名であり、アンケート提出者数は54名で回収率は81.8%でした。

2) 性別・年齢

性別は女性48名（94.1%）、男性3名（5.9%）でした。年齢は50歳代が15名（27.8%）と最も多く、次いで、40歳代14名（25.9%）、30歳代10名（18.5%）、60歳代8名（14.8%）、20歳代7名（13.0%）の順でした。

3) 職種

受講者の職種の一覧を表1に示します。

歯科衛生士と歯科医師を合わせると31名（47%）であり、その他様々な職種、家族が出席していました。

表1 受講者の職種

職 種	名
歯科衛生士	23
歯科医師	8
保育士	6
支援員・児童発達指導員など	6
管理栄養士・栄養士	5
保健師	3
言語聴覚士	2
福祉施設等職員	2
歯科助手	2
臨床心理士	1
助産師	1
作業療法士	1
看護師	1
教員（特別支援学校他）	1
日本ボータージ協会認定相談員	1
患者家族（子供2名含）	3
計	66

受講者の評価

講演内容に対する受講者の評価を表2に示します。

「非常に良かった」が27名（55.1%）、「良かった」が22名（44.9%）であり、良くなかったと回答した者はなかった。

表2 受講者による評価

評 価	名 (%)
非常に良かった	27 (55.1)
良かった	22 (44.9)
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
計	48 (100)

受講者の感想・意見

講演内容に関する受講者の感想・意見は以下のとおりでした（一部記載）。

- ・低出生体重児の歯・口腔の特徴や原因・現状を含めわかりやすく教えて頂きました。
- ・低出生体重児について、どのような合併症が起こるのか、今まで分からなかったことが学べてよかったです。
- ・低出生体重児に関して、医療従事者以外の者への研修会があまりないのでとても興味深くきかせていただきました。
- ・由紀先生の『奇跡の子』、『がんばってきたお母さん』というお話がとても印象に残りました。施設の指導員として、保護者に対しても指導的な立場になっていたのではないかと保護者の気持ちに寄り添えているだろうかと日常を振り返ることができました。
- ・今回のテーマの研修会をはじめてだったので、とても勉強になりました。今まで、あまり低出生時の口腔機能面の発達に意識しなかったのですが、起こり得ることやフォローアップする時期について学べてよかったです。
- ・市町村の乳児健診や養護学校にも関わっていますので、今回の内容はとてもよかったです。今後に生かしていきたいです。
- ・第2子が超低出生時で、興味があり参加させていただきました。新生児の合併症から母子手帳の活用など知識が深まりました。
- ・わが子が2,050gで生まれ、歯列等で歯科にお世話になっていますが説明がなく、今回の研修会で納得する面もあり気にしていきたいと思います。
- ・私自身の勉強不足もあり、正直難しい言葉もありましたが、勉強になりました。『小さく生まれた』ということだけでも気になる保護者の方も多いと改めて思いました。保護者に話をよく聞き、情報を共有しながらサポートしていきたい

と思います。

- ・気管挿入が口腔内に与える影響を勉強できてよかったです。

今回の講習会が受講者にとって医療、支援の現場における種々な問題・疑問の解決に役立つ内容でありましたら幸いです。今後も受講者の方々の要望を考慮して実りある講演会を企画していきたいと考えています。



講演会風景

原稿募集

身近な出来事から臨床まで皆さまのご意見・感想を載せてみませんか。

「茨歯会報」は会員皆さまの会誌です。臨床におけるヒントや趣味、旅の思い出など、また地区歯科医師会や同好会・同窓会の様々な活動（研修会、厚生事業）など何でも結構です。会報をフルにご活用下さい。

Eメールの投稿で結構です。形式はどんな形式でもかまいませんが、出来ればテキスト、ワード、一太郎、にてお送り下さい。

詳しくは、茨歯会事務局まで。

E-mail id-05-koho@ibasikai.or.jp

広報委員会



【親睦会】

— 歯科衛生士科 —

5月2日（火）五月晴れに恵まれ、内原ヘルスパークにて衛生士科2年生主催の親睦会が行われました。総勢147名が、お玉リレーとジャンケン陣取り、ドッジボールの3種目で優勝を目指して競い合いました。

開会式の後、準備体操で体をほぐし、早速1種目目のお玉リレー。各学年4チームにわかれて、お玉の上にピンポン玉をのせて上手く運ぶ競技です。バランス感覚が必要で思った以上に難しく、学生は四苦八苦しながらも競技を楽しんでいました。

2種目目のジャンケン陣取りは、学年対抗となり先輩後輩に負けまいと、それぞれチーム一丸となって勝負しました。

4月から新たな学生生活が始まった1年生は、まだ新しい環境に慣れない頃かと思いましたが、なかなかのチームワークで奮闘しました。

2年生は、自分達で親睦会を企画し、トーナメント表作りや参加賞の準備など、裏方として活躍、当日の競技でもクラス全体が奮闘しました。

最後の学年となる3年生は、クラスもまとまり、日頃の臨床実習の緊張からも解放され、楽しい一日になったのではないかと思います。

ドッジボールは、半分は楽しみながら、後半は真剣勝負の試合展開でした。先輩チームと対戦する1年生も、少々遠慮気味だったかもしれませんが負けてはいません。2年、3年生ともなるとお互い容赦なく対戦に臨んでいたように見られました。

総合成績は、2年生の優勝でしたが、結果にこだわらず各学年が大いに楽しんだ親睦会となりました。

今日の日が、3年間の学生生活の中でまた良い思い出になればと思います。



お玉リレーの様子

（文責 根目沢）

【親睦会】

— 歯科技工士科 —

5月12日（金）、水戸グリーンボウルにて歯科技工士科の親睦会として、学生主催でボウリング大会が行われました。

1年生11名、2年生5名、教員4名の計20名が参加し、上位景品を目指し、それぞれ気合い十分でゲームに臨みました。

普段は授業が忙しく、学年を越えての交流はあまりないのですが、この日はボウリングを通して

楽しく会話もでき、倒したピンの数に一喜一憂するなど、日頃の授業の大変さから解放され、楽しい時間が過ごせました。

今回の親睦会で心身共にリフレッシュしたことで、今後の授業に新たな気持ちで取り組んでほしいと思います。



うまく倒せてみんなとハイタッチ



全員集まって記念撮影

(文責 小田倉)

【第1回オープンキャンパス】

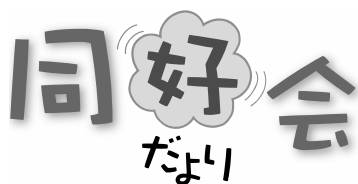
5月26日（金）午後3時から第1回オープンキャンパスが開催されました。

歯科衛生士科では、20名の方の参加があり、口腔センターや8020・6424推進センターの概要説明と校内案内、授業見学を行いました。

1年生のセメント練和やスケーリング実習を見学し、緊張しながらも、身を乗り出して積極的に見学をする姿が見られました。また、自分でも実際に操作をしてみたい、もっと触れてみたいという意欲的な意見も聞こえてきました。

1時間という短い時間でしたが、普段の講義や実習を見学し、本校での学校生活や歯科衛生士という仕事がより具体的になったのではないかと思います。

(文責 川井)



春のテニス大会報告

(社)東西茨城歯科医師会 村木 英司

梅雨入り直前の6月4日(日)快晴の下、霞ヶ浦総合運動公園テニスコートに於いて、毎年恒例の「春のテニス大会」が開催されました。

準備、運営にご尽力下さいました高野先生、柴沼先生を始め土浦の先生方ありがとうございました。そしてご苦労様でした。毎年恒例のうなぎ弁当も美味しく頂きました。

真夏の様な陽気の中、成井茨城デンタルテニスクラブ会長の挨拶、記念撮影の後、参加者くじ引きの上ダブルスのペアを決定、A組リーグ5ペア、B組リーグ4ペアに分かれて予選リーグ戦を行い、各1位、2位ペアが決勝トーナメントを行い、各3位以降のペアは、コンソレーショントーナメントを行いました。

気温に負けない熱戦が繰り広げられ、プレーをしていても、観戦していても楽しく見ごたえのある試合ばかり(中には、笑える珍プレーもありましたが)で、参加された選手の皆さん楽しい時間

を過ごされた事と思います。

参加されました選手の皆様、お疲れ様でした。当日は暑かったので後々まで疲れを持ち越してしまわないか少し心配です。

試合結果は、

優勝 比企能隆、村木組

準優勝 鈴木(宏)、金澤組

3位 谷川、宮崎(川上)組

3位 宮田、網野組

コンソレーション優勝 比企省吾、李組

準優勝 雨宮、門脇組

となりました。

参加された先生方、きっと皆さん誰もが組み合わせを望んでいた比企能隆君をくじ引きで頂いてしまい、今回は本当にごめんなさい。

比企君は、29歳の現役バリバリプレイヤー。高校時代、今プロとして活躍している仁木選手達と練習していました。錦織君のような凄いバックストロークを打ちます(錦織君と同じでサービスは少し苦手かな?)。

おかげで、私は黒子の様に繋ぐだけ、「うちの兄貴はスゲーんだぜ」と影で息巻く弱いやくざさんの様に勝たせて頂きました(本当に、卑怯な奴ですみません)。

歯科医師会テニス大会に毎回続けて参加させて頂いていると、シニアに当たる年代の先生方が新





優勝



準優勝

に参加されたり、久しぶりに再会したり、驚く程にうまくなっていたり、かわいかったご子息達が逞しく成長されて凄いボールを打つ様になっていたりと、毎回うれしい話題があり、楽しく過ごさせて頂いております。

これからも、今まで参加されていた先生方、先生方のご家族が多数参加されて盛会に大会が続いていく事を願っております（私が地元でコーチをさせて頂いているチームにも歯科医師会会員の御子息が居たりします）。

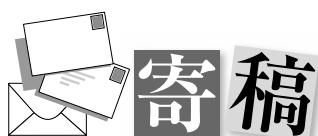
以前行っていた、参加される先生方のご家族へのスクール、テニス体験も再開して、少しでも多くの先生方に参加して頂ける様、茨城デンタルテニスクラブの先生方と頑張っていきたいと思っ



コンソレ優勝

おります。

次に水戸で行われる秋のテニス大会に、より多くの参加者が集まります様願って大会報告と致します。



第17回日本スポーツ・健康づくり歯学協議会 幹事会および協議会報告

いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会 荻野 義重

平成29年5月13日（土）午後3時より福井県福井市『福井パレスホテル』におきまして、第17回日本スポーツ・健康づくり歯学協議会・幹事会が開催されました。開会にあたり日本スポーツ・健康づくり歯学協議会会長の杉山義祥先生より挨拶がありました。現在、東京オリンピック・パラリンピックに向けての働きかけをしており、日本歯科医師会とも連携をとっているところです。また、日本スポーツ歯科医学会および日本体育協会公認スポーツデンティスト協議会とも連携をとりつつ現在、プレ国体の年にはこの協議会を各都道府県において開催しているとの報告がなされた。今回司会を務めた日本スポーツ・健康づくり歯学協議会幹事長の児玉先生は岩手県歯科医師会の理事も務め、岩手国体においては各競技会場において救護所派遣とマウスガードなどの歯科に関するブースも開設され、精力的に動かされた先生でもある。報告では平成28年度日本スポーツ・健康づくり歯学協議会事業報告がなされた。この中で、各種会議とすることで日本歯科医師会スポーツ歯科座談会（日歯雑誌4月号掲載）世界空手連盟事務局長との面談ではマウスガードについて話し合いが行われた。

第1回および第2回東京オリンピック・パラリンピック対策ワーキンググループへの参加。JOCは猪谷千春名誉委員と福井烈強化副部長と杉山会



長で、日本歯科医師会は柳川副会長、村岡専務理事とで面談が行われたことが報告された。

議事は平成28年度日本スポーツ・健康づくり歯学協議会会計収入支出決算について報告され、監事報告がなされ承認された。次に第18回日本スポーツ・健康づくり歯学協議会開催県について、平成30年5月19日（土）茨城県において茨城県歯科

医師会の主催で行われることが決定された。今回茨城県歯科医師会からは森永和男会長と渡辺進常務理事、小林不律会計担当理事、千葉順一理事、事務局からは根本啓子さん、そして荻野が参加した。引き続き協議に入り、第17回日本スポーツ・健康づくり歯学協議会大会長で今回の当番県でもある一般社団法人福井県歯科医師会会長の齋藤愛夫先生から挨拶がなされた。来賓として日本歯科医師会 小林慶太常務理事（堀憲郎会長の代理）をはじめ、日本学校歯科医会 丸山進一郎会長、日本スポーツ歯科医学会 上野俊明理事（安井利一理事長の代理）、日本体育協会公認スポーツデンティスト協議会 太田謙司会長がそれぞれ挨拶された。

出席者紹介として今回5つの県歯会長が参加され、茨城県歯科医師会会長 森永和男先生、栃木県歯科医師会会長 宮下均先生、愛媛県歯科医師会会長 是沢恵三先生、沖縄県歯科医師会会長 比嘉良喬先生、地元福井県歯科医師会会長 齋藤愛夫先生が紹介された。今回国体報告として、今年度岩手県で行われた「希望郷いわて国体におけるISDの活躍」というテーマで、一般社団法人岩手県歯科医師会理事の鈴木卓哉先生から詳細な報告がなされた。引き続き講演として「スポーツデンティストの現場対応」のテーマで、日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座専任講師の鈴木浩司先生から1. スポーツ現場における応急処置の概念、2. スポーツ現場における歯科領域の外傷割合、3. 救急セットの内容と使い方、4. 各種外傷状況下における対応と注意事項、5. 歯科領域のスポーツ外傷の予防と安全対策について、世



界空手道選手権から全日本空手道選手権、高校生空手道選手権大会、全日本少年少女選手権の現場でそれぞれ起きた事案や、救護体制を6年間の集計結果を基に詳細に話され、大変感銘を受けました。本来ならばまだまだ時間が足りないところではありましたが、時間の都合上割愛された症例等ありましたが講演終了となりました。その後会場を移し懇親会が開催され、福井という土地柄大変多くの地酒が持ち込まれほぼ飲み尽くしたようでした。

来年は茨城県歯科医師会が当番県となり開催されます。福井県は幸福度が日本一ということで、幸福のお裾分けをしていただきました。茨城県の知名度は4年連続最下位という知名度が定着してしまいましたが、茨城という名前は今年の某放送局の朝ドラが全国放送となり、ほとんどの国民が一度は知っている県となったと思います。この地で開催されるという事はいろいろな縁が結びついて今日に至ったと思いますので、来年の日本スポーツ・健康づくり歯学協議会を盛会に終わることができるように準備して行きたいと思っています。



〒310-0911 茨城県水戸市見和2-292
 公益社団法人
茨城県歯科衛生士会
 TEL・FAX 029-253-5807
<http://www.ibaraki-dh.net/>
 E-mail jimu@ibaraki-dh.net

(公社)茨城県歯科衛生士会 水戸支部 須藤 輝代

つい先日、小林麻央さんが34歳で亡くなられたニュースがありました。

ご冥福をお祈りいたします。

私も麻央さんが生きた年月（35年）を、歯科衛生士として、子育て中も含め細く長く携わることができ、その間に、主人の父親、自分の父親、そして母親を見送ることができました。2年前には、ずっといつかは、戻りたいと思っていた臨床の場に転職しました。周りからは、「なんで今更、びっくり」と逢う方々に言われましたが、この歳でも受け入れてくれるところがあったといううれしさと、もう一度患者さんと向き合いたいという気持ちの方が勝って、転職いたしました。現実には、技術はもちろん体力的にもそうそう甘いものではないことは痛いほどわかりましたが、歯科医院の皆様のおかげで、今も楽しく続けさせていただいております。ちょうどそのころ、占ってもらう機会があり仕事運をみてもらった時に、「あなたは人に話をする仕事があるみたいだね」という言

葉に、さらに「これで良かったんだ」と妙に納得したような気がします。これからも、歯科医院の仕事はもちろん、時々ボランティア活動、そして市町村の仕事をできる限り続けたいと思っています。

昨日は、「高嶋ちさ子さんのトークとコンサート」。スペシャルゲストは、あのプリンセスプリンスの岸谷香さんでした。高嶋さんのトークとクラシックはもちろん良かったのですが、私より5歳年下の50歳の岸谷さんは、ミニスカートで登場。あの時のままの歌声が聞けたときは、可愛くて、青春が戻ったようで、涙が出そうになり、昨晚は、プチ興奮でなかなか寝付けませんでした。

トークの中で、「若さの秘訣は？」の質問に「好きなことをしているからかな」と二人で話していました。私は今、「自分の好きなこと？仕事、旅行、そしてコンサートもいいよね」という感じです。そして、まずは、健康であることですね。



クルーズの薦め

(社)茨城西南歯科医師会 木村 和男

西南歯科医師会つながりで、とうとうリレー通信が回ってきましたが、数ある趣味の中で、最近ハマっている「クルーズ旅行」について少々お話ししようかと思います。

海外旅行は年数回、強引に一週間ほどの休診を決行し、30年前のハワイ旅行以来、色々と体験してきました。子供が小さいうちは近場のグアムやハワイなど滞在型の旅行でした。基本的に海でボーッとするのが好きなため、綺麗な海を求めだんだんと範囲を拡張し、20数年のうちに、ハワイ、グアム、サイパン、パタヤ、プーケット、チェラティン、バリ、ビンタン島、ニューカレドニア、フィジー、モルディブ、ケアンズ、タヒチ、パラオなど1都市滞在のビーチリゾートを体験してきました。他に訪れた国や都市として、香港、台湾、シンガポール、クアラルンプールなど。それぞれ、飛行時間が約10時間以内の割と近場が主なところでした。

ダイビングはできないため、基本的に素潜りか、シュノーケリングとなりますが、心に残る海のNo.1はタヒチ、ボラボラです。No.2はモルディブ、No.3はフィジーとニューカレドニアというところでしょうか。ボラボラ島の海の色は本当にどこにも似ていなく綺麗です。モルディブは魚の種類が豊富でした。海外ではありませんが、西表島や石垣の海も綺麗です。ただ、残念なことに、最近の海水温の上昇で白化現象が進み、サンゴがだいぶ

傷んでいるようです。

閑話休題。

クルーズの話に戻ります。

6年前、娘が大学入学で親元を離れ、とうとう夫婦二人暮らしの生活に戻ることになりました。それまでの家族旅行とは異なり、夫婦二人だけの旅行を考えた時、思いついたのが「クルーズ旅行」です。

最初のクルーズは2011年9月の小笠原クルーズ、日本船の「日本丸」です。総トン数2万トン強の現在では小型船です。ところが、出港前から太平洋上に台風が発生し、なんだか怪しい雰囲気。出航はしたものの予感はお的中し、2つの台風に行く手を阻まれ、船は揺れるわ、小笠原には上陸できないわ、の散々なクルーズとなりました。ただし、この時の大揺れを経験したおかげで、その後のクルーズはどれも快適快適。

一般的に、クルーズのカテゴリーは3つに分けられ、乗組員一人当たりの乗船客数や乗船客1人当たりの総トン数で決まります。上から「ラグジュアリー」、「プレミアム」、「カジュアル」となります。ただ、日本船に関してはクラス分けが当てはまらず、日本丸などは総トン数は少ないですけど、サービスは良いし、料金も高めですから、飛鳥II同様ラグジュアリークラスに入るかと思います。

次に乗船したのが、結婚25周年のお祝いを兼ねた、イタリアの新造船「MSCデヴィーナ」での地

中海処女クルーズでした。初めてのヨーロッパ旅行でもあり、処女航海ではお決まりの命名式（何とシャンパンを割ったのは、往年の名女優ソフィアローレンでした）に参加するなど、感慨深い旅行となりました。「MSCデヴィーナ」は13万トンクラスで、乗客4000人という巨大船です。カテゴリーはカジュアル船ですが、同行の日本人ツアー客は、特別な「ヨットクラブ」というクラスを全室占拠しました。というのも、JTB100周年の特別企画で、参加者は100人を超えていたと思います。ヨットクラブは専用デッキで、クラブ外の乗客は入れず、専用プールやラウンジ、レストランがあり、カジュアル船の中のラグジュアリー船という位置付けです。おかげで、とてもゆったりとくつろげました。

ところで、クルーズ旅行の一番良いところは、何と言っても観光地間の移動が楽だということです。昼間寄港地に停泊し、その間乗客は観光したり、船内でゆったりと自由に過ごしたりします。通常、夕方から夜にかけて港を出港し、夜間航行。朝には次の寄港地に入港ということを繰り返します。つまり、移動は基本夜間であるということです。長時間バスに揺られたり、飛行機に乗ったりすることに比べたら、段違いの快適さです。荷物もパッキングを繰り返すことはありません。一度船室に入ったら自分の部屋のように使えます。そう、ホテルが勝手に移動していることなのです。船内の設備は当然クラスによったり、船会社によったりで、変わってきますが、夜、食後にエンターテイメントを鑑賞できるシアターが、大小の差はあれ完備されていることが多いです。歌や踊り、マジックなどを鑑賞できますが、レベルは結構高く、なかなか楽しめます。当然プログラムは、一週間ほどの航海中一度も同じことはありません。

食事は基本、ツアー代金に含まれます。大きな船になりますと、複数のレストランがあり、スペシャリティーレストランにつきましては回数制限



デヴィーナ



船長と

があったり、特別料金がかかったりしますが、旅の楽しみは食事ですので、スペシャリティーレストランには足を運ぶべきだと思います。また、食事のグレードは、船のクラスに直結します。やはり、ラグジュアリークラスになりますと、都会のレストラン並みの料理が提供されますし、お酒もインクルーシブのこともあり、気軽にワインなど楽しめます。

最近お気に入りの船会社は、クリスタルクルーズです。最近まで日本郵船が親会社のアメリカの船会社でしたので、サービスが日本人にもしっく

ります。現在は、香港の会社が所有していますが、サービスの変化はないようです。

船自体は5～6万トンクラスと中規模の船を2隻所持し、将来的には10万トン超えの大型船になるようです（他に最近、リバークルーズ船も就航しました）。

現在の船は「クリスタルシンフォニー」と「クリスタルセレンティー」で、どちらも乗船したことがあります。「クリスタルシンフォニー」は実は日本船の「飛鳥II」と姉妹船です。というのも、飛鳥IIは日本郵船所有ですので。「クリスタルシンフォニー」の方が、1万トンぐらい小さいのですが、基本、船内の設備や配置は近いものがあります。クリスタルクルーズの特徴の一つとして、スペシャリティーレストランにニューヨークで有名な和食レストラン、「NOBU」が入っていることです。最近の世界的な和食ブームで、船内に和食レストランが入っている例は多いですが、「NOBU」につきましては、本格的で、美味しい料理が出てきます。また、ラグジュアリークラスですので、乗客数が少なく、例えば朝のバイキングでも席の取り合いなどなく、とてもゆったりと過ごせます。お酒がインクルーシブなところも良いですね。

現在、日本発着のクルーズは、日本船、外国船合わせ、数年前に比べると多数あります。外国船の筆頭が、日本人のために、浴場まで作って改装した「ダイヤモンドプリンセス」でしょう。長崎の三菱重工で建造された11万トンクラスの船で、プレミアム船に属します。二度乗船したことがあ



ダイヤモンドプリンセス

りますが、なんと言っても、日本発着というところが最大の利点です。11万トンの大型船だけに、設備も最高です。食事はラグジュアリークラスに比べればそれなりですが、スペシャリティーレストランの「サバティーニ」はなかなかです。日本発着で飛行機代がないために、ツアー料金も控えめですので、初めのクルーズの選択としても最高ではないでしょうか。

まだまだ行ったことがないところもいっぱいですし、今後も年に一度は船の旅を続けていこうと思っています。夢としては、リタイヤした後に世界一周のクルーズを体験したいですね。そのためにはまだまだ現役として頑張らねば。

次回は、大学の同級で、卒後は矯正歯科講座の医局でも一緒に勉強をした、水戸の大森勇市郎先生にバトンタッチします。

茨歯アンテナ

月刊ぶらぎ 2017年6月号



歯医者さんは健康の入口、 すこやかな人生のパートナー ますます重要になる歯科医療の役割

公益社団法人 茨城県歯科医師会 会長

森永 和男さん

MORINAGA KAZUO

歯学博士、森永歯科医院(水戸市城南2-15-30 Tel.029-225-1081)院長

【公益財団法人 茨城県歯科医師会】

会員数1,300名超が所属する団体。医道の高揚と歯科医学の進歩発展と公衆衛生の普及向上を図り、社会並びに会員の福祉を増進することを目的とする。

住所/水戸市見和2-292-1 Tel.029-252-2561

糖尿病、脳梗塞、誤嚥性肺炎 虫歯や歯周病は様々な病気の危険要因

皆さんは歯科にどのようなイメージを持っていますか？「虫歯を治療する場所」「歯が痛くなったら行く場所」…それが「歯科医院」に持つイメージかもしれません。確かに以前の歯科の役割はそのようなものですが、現在は全く異なります。それは、1990年代後半から、口内環境の良し悪しが、全身疾患と密接に関わることが次々と明らかになったからです。それ以前の昭和の歯科の認識の方は、ぜひここで現在の歯科医療、口内環境を健康に保つことの重要性や、歯科との関わり方を、改めて知ってほしいです。

虫歯や歯周病は、細菌による感染症です。大人の口の中には、病気を引き起こすものを含めた300〜700種類の細菌が、1000億個〜1兆個ほど住み着いています。歯磨きや定期的な歯のクリーニングで口腔内をきれいにしている人ほど細菌の数は少なく、歯をあまり磨かない人や虫歯や歯周病が進行している人ほど、数は多くなります。口の中で増殖した虫歯菌や歯周病菌は、飲み込まれることで肺などに入り、死因3位（高齢者の死亡原因1位）である肺炎の7割を占める誤嚥性肺炎を引き起こします。また、歯ぐきの腫れや歯周ポケットなどから歯が血液に入るとそのまま全身を巡り、心臓病や脳梗塞、糖尿病など生活習慣病、早産、関節リウマチ、骨粗しょう症などのリスク要因になるのです。なかでも糖尿病では、歯周病が第6の合併症とされ、歯周病の治療で血糖コントロールが改善されるなど深い関わりがあります。さらに、かむことは脳の活動と関係しているので、歯周病などで歯がなくなることでも力が衰えると、認知症の発症割合がぐんと上がるのです。

口内環境への意識を高めることが 健康で快適な人生につながる

口内環境と健康との関係が明らかになるにつれ、歯科の果たす役割の大切さが見直されるようになりました。平成元年には80歳になっても20本の歯を残そう」という「8020運動」もスタート。当時は高齢者のほとんどが歯を失っていました。歯の大切さを啓発してきた結果、今は4割の方が目標を達成しています。実際、歯が残っている方が、医療費も抑えられているんです。自覚がなくても年に4回の歯科検診でクリーニングを行うことが、様々な疾患を未然に防ぐ近道なのです。でも、20代〜60代の成人期の方は、歯への意識が低いんです。お子さんは定期歯科検診がありますし、高齢者の方も定期的に歯医者に通われる方が増えているのですが、20代〜60代がポロツと抜けている。歯がなくなつてから、病気になるまでから後悔しても遅いんです。一生自分の歯で食べ、お喋りができ、健康でいられる。口内環境を整えることは、その最初の入り口なのです。今後、歯に対する新しい認識への啓発活動を続けるとともに、身障者歯科治療センター（※1）、在宅歯科医療連携室を設置し、高齢者への訪問歯科治療や、一般の診療所では治療が困難な障がい者への治療、児童虐待への対応など、幅広い活動を進めていきたいと考えています。歯科医師が児童虐待防止活動？と思われるかもしれませんが、今は以前に比べ格段にお子様の口腔環境が改善されています。その状況において、極端に口腔環境が悪いお子さんは、保護者からの虐待（ネグレクト）を受けているケースが多く、歯科医師にも虐待防止マニュアルが出されたのです。このように、歯科医師に求められる役割は増えていきます。これからもしっかりと取り組んで参ります。

6月4日(日)~10日(土)は

「歯と口の健康週間」

茨城県歯科医師会では、一般の方々に向けた様々なセミナーや講習会を開催しています。最新情報はHPなどでご確認ください。

■ 茨城県歯科医師会HP

<http://www.ibasikai.or.jp/>



写真は口腔センターの様子



(※1)口腔センター水戸 水戸市見和2-292-1 (茨城県歯科医師会館内)

※予約制 TEL.029-254-4177 / Fax.029-215-2573



この号が出る頃にはもう終わっているかもしれませんが、私の通っているギター教室の毎年恒例の発表会が7月初旬に開催されます。今年でまだ発表会に参加して2回目ですが、昨年初めて参加した時は、緊張で手が震えてあまり上手く弾けなかったもので、今年こそはと思っているのですが、どうなるのでしょうか？昨年はエリック・クラプトンの「アンプラグド」というアルバムの中の「ティアーズ・イン・ヘブン」という曲を演奏しましたが、今年も同じ「アンプラグド」に入っている「ランニング・オン・フェイス」という曲を演奏します。私はエリック・クラプトンが大好きで、特にこの「アンプラグド」というアルバムが大好きで、全ての曲を演奏してみたいと思っているのですが、その中でも「ランニング・オン・フェイス」はお気に入りの中の一曲です。この曲はリゾネーターギターという特殊なギターを使って演奏します。リゾネーターギターとは、まだエレキギターが出現する前の戦前に、何とかしてアコースティックギターの音量を増大させるため、円形の薄いアルミニウム製のコーン（共鳴板）をボディに取り付けたギターで、その独特な音色でブルースやハワイアンに使われますが、薬指や小指にガラス

や金属製のスライドバーをはめて、スライドギターとして使われることが多いです。「ランニング・オン・フェイス」はこの特殊なギターを使うため、一人では演奏できないので、発表会ではプロの方がバックで演奏してくれるため、今回は演奏するチャンスだと思いました。最初はこんな難しい曲を演奏できるのかなと思っていましたが、練習をしていくうちに少しずつ様になってくるようになりました。まさかこの大好きな曲を人前で演奏できるなんて夢のようです。これからもバンドで演奏して、ボーカルも取れるような曲を選んで行きたいと思います。これからリハーサル、本番と演奏を楽しんで行きたいと思います。

（勝）

今回この広報委員会を、お三人の先生が去ることになりました。長い間ありがとうございました。各地区から委員が一人出向していた十人体制、広報委員が六人の時代、そして再び十人体制と色々な広報委員会を見てきた先生方、本当に色々なご苦労があったと思います。只々ご苦労様でした。これからは自分の時間を、楽しんでください。



5月30日は、マツダのコスモスポーツの50歳の誕生日でした。1967年（昭和42年）5月30日に発売され、早50年。広島のマツダ本社へ、お祝いに北は栃木から南は福岡から20名近く、コスモスポーツは7台集まり訪問し、マツダの方々と共にお祝いをして来た。私は、四半世紀ぶりになる本社訪問で、楽しい一日を過ごすことができた。

帰りの新幹線では、仕事や環境や年齢が異なるコスモを愛する仲間達で、お酒を酌み交わしながら大いにコスモ談義に盛り上がり、東京までの4時間と言う短い間に、自分の中に幸せ感で満たされる思いをした。明日からまたがんばるぞー。

(コスモッコ)

6月16日(金)、朝からじりじりと肌を焼くような日差しが照り付けていた。ところが午後になると、にわかに雲行きが怪しくなり、あっという間に雹(ひょう)が降り始めた。

最初は雪の粒が大きい程度だったが、やがて明らかに大きな塊となり、会話も聞き取りにくくなるほどの大きな音で、たたきつけるように降り続けた。患者さんもスタッフも、もちろん私も気が



気ではない。決して小さくない石を長時間にわたって投げ続けられているような感じだ。待合室の患者さんは窓際のソファに座っていることができず、中ほどに避難し、外を不安げに見続けていたようだ。

すごく長い時間に感じられたが、せいぜい30分ぐらいだったか。ほどなくして外も明るくなり、うそのように穏やかな日差しが戻った。ただ、雹の残がいはいは散らばっており、気づけば多くの網戸がボロボロになっていた。うちの被害はこの程度で済んだが(今のところ)、車がぼこぼこになった、窓が割れた、壁が壊れた、頭に直撃してこぶができた(こぶ程度でよかった)、と言った声も聞く。農作物の被害は尋常ではないようで、口をそろ



えて「全滅だ」と悲しそうに話す方が何人もいる。

改めて自然災害の恐ろしさを感じた1日だった。皆さんの地域は大丈夫でしたでしょうか。

(仁)

広報委員になり、2期目が終了しようとしています。まだまだ新人の気持ちでいますが、早4年経とうとしています。歳をとればとるほど時間が過ぎるのを早く感じます。

右も左も分からないまま広報委員会に出向する事になり、かなり不安でいっぱいでしたが前任の永沼先生のお気遣いや広報委員会の先生方に助けられ、何とかここまでやってこれました。

いろいろ大変お世話になり、ありがとうございました。

また来期も継続して広報委員です。今期で広報委員が終わられてしまう先生方、いろいろお疲れ様でした。

来期も今まで以上に頑張っていきたいと思います。

(maru)

県歯広報委員を今期限りで退くこととなりました。正直、身体もしんどいのでうれしいというのが正直なところでした。とにかく長かった。

水戸にはそれまでほとんど行ったことがなく、地図と勘を頼りにあちこち周っていたように思う。やがてカーナビがでてかなり便利になり、いつの間にか水戸の地理に詳しくなっていた。おもしろいところ、おいしいものたくさん覚えた。何しろ家族で水戸に遊びに行くようになっていた。それが今でも続いている。特に春の花見は盛り上がっている。

広報委員会も、最初は手書きの原稿と印刷された原稿を見比べて校正をしていた。歯科専門用語

の変換がうまくいっていないことが多く、下肢走神経？（気持ちは痛いほどよくわかる）、タルタルバー？（ゴロがいい、わかりやすい言葉）など笑っちゃうことも多かった。時代の流れとともに、ワードで作成された原稿が多くなり印刷された原稿での変換ミスも少なくなっていく。そしてIT革命が起きる。広報委員会のMLが作られ情報がML上で伝達されるようになり、PDF原稿を校正してメールに添付して送る。印刷所との直接のやり取りができるようになっていった。必然的に水戸の歯科医師会館へ行く回数は減っていった。これもきっと時代の流れなのでしょう。

10年以上の県歯広報委員でしたが、山あり谷ありで実に様々な出来事がありました。木曜日の委員会開催だったのが水曜日の委員会に変更になってスケジュール調整に苦労した年もあったり、経費削減で委員の数が半分になった年もあったり、新会館建設のためいろんなところで委員会を開いたり、歯の健康フェスティバルでのウルトラクイズの開催、100周年記念誌の刊行などなど、とても書ききれものではありません。



また、他地区の広報委員の先生方との出会いと別れ、それに伴う思い出も数多くありました。特に広報部長であった菱沼一弥先生の訃報には驚いたと同時に喪失感でいっぱいになりました。本当に残念でなりません。

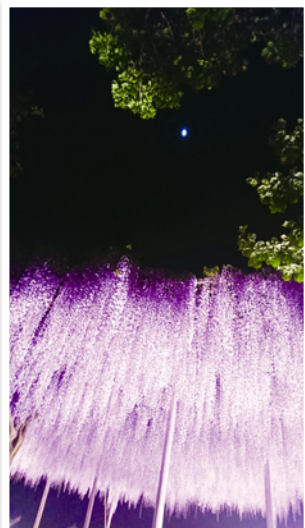
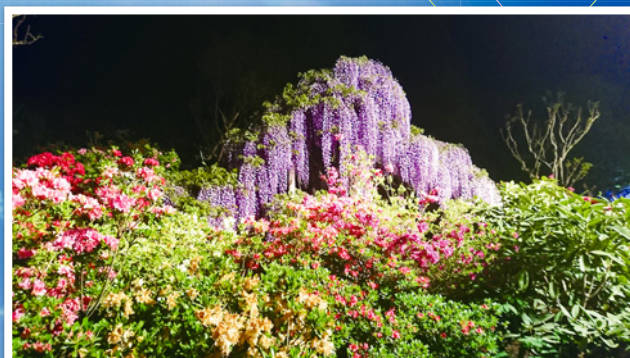
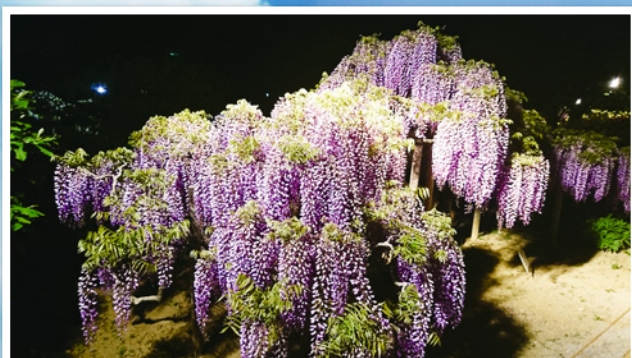
これからは広報委員ではなくなりますが、陰になりこっそりと広報委員会を応援していきたいと思っています。今後は一会員として、茨歯会報をもっと気楽に読めるようになることでしょう。きっと。

（くすくすくす）



みんなの写真館

Photo
Gallery



(社)茨城県つくば歯科医師会 小林 健一

みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、御自宅の古いアルバムに埋もれた写真などを御送り下さい。

1種会員 1,146名
2種会員 43名
終身会員 135名
準会員 3名
合計 1,327名

会 員 数

平成29年5月31日現在

支 部	会員数(前月比)	
日 立	121	+1
珂 北	139	+2
水 戸	154	
東西茨城	73	+1
鹿 行	105	
土浦石岡	173	
つ く ば	123	
県 南	178	
県 西	153	+1
西 南	105	
準 会 員	3	
計	1,327	+5



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 平成 29 年 6 月

発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地

電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075

ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>

E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 征矢 亘



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。